

# 備える！福祉の防災訓練

～命を守る行動をとるための第一歩～ **パート2**

自分の命を守るため、大切な人の命を守るための備えの第一歩として  
訓練に参加してみませんか？

日時：令和5年2月4日（土）14:30～16:30  
（受付開始：14:30から）

場所：都島中学校（都島区中野町3丁目9-33）  
集合場所：西側通用口前

対象：関心がある方（定員20人）

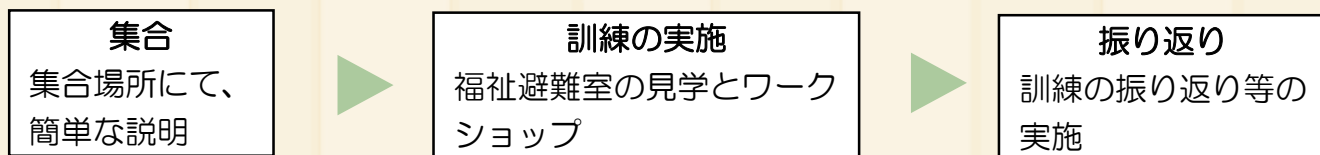
内容：◆福祉避難室の見学  
◆ワークショップ

※福祉避難室とは、配慮が必要な方が安心して過ごせるように設置される部屋です

コロナ禍での避難所・障がい特性に応じた支援  
について、みなさんで考えます。

持ち物：スリッパ・上履き、筆記用具

暖かい服装でお越しください！



## 【申込み・問合せ】

都島区社会福祉協議会（地域支援担当）

住所：都島区都島本通3-12-31

電話：06-6929-9500 FAX：06-6929-9504

主催：都島区社会福祉協議会、都島区障がい者基幹相談支援センター・あるる  
都島区地域自立支援協議会

協力：特定非営利活動法人 ゆめ風基金

裏面も  
ご覧ください

# 『広げよう地域の輪』とは？

障がい理解へのすそ野を広げていくことを目的に、毎年テーマを変えながら、講座や体験学習などを実施しています。

平成30年度

講座や施設への見学



令和元年度

福祉の防災訓練

令和2～3年度

区社協だよりでの報告



**「広げよう地域の輪」**  
 ~東京2020オリンピック・パラリンピックを通じて、誰もが暮らしやすいユニバーサルデザインのまちづくりへ~

特別非常勤活動法人あるる  
 都島区障がい者  
 養育施設支援センター・あるる  
 代表理事 島屋 利治

昨年2021年は、日本や世界中のコロナ禍の影響により開催が1年遅れた東京2020オリンピック・パラリンピックとなりました。オリンピック・パラリンピックは障害者のまちづくりをも発展させます。特にパラリンピックは世界中から障がいのあるアスリートが集まるため、その国のバリアフリー化、ユニバーサルデザインを推進させ、結果として障がい者や高齢者だけでなく、誰もが暮らしやすいまちに進化します。

この東京大会を契機にユニバーサルデザインのまちづくり、心のバリアフリーを全国的に推進していくために、「ユニバーサルデザイン2020行動計画」が作られていました。行動計画では、「障がい」は個人の心身機能の障がいと社会的障壁の相互作用によって割り出されているものであり、社会的障壁を取り除くのは社会の責務であるという「障がいの社会モデル」をすべての人が理解し、それを自らの意識に反映させ、具体的な行動を変えていくことで、社会全体の人々の心の在り方を変えていくことが重要であるとされました。また、この「障がいの社会モデル」の考え方を反映させた、誰もが安全で快適に移動できるユニバーサルデザインのまちづくりを進めていくことが必要だとされました。

東京2020オリンピック・パラリンピックでは、他にもIPC（国際パラリンピック委員会）アクセシビリティ・ガイドという世界のバリアフリー整備基準を、東京大会の施設整備基準

である「Tokyo2020アクセシビリティ・ガイドライン」に反映させて、世界最大の大会会場の整備を進めてきました。新国立競技場の建設には、計画段階から多様な障がい者団体・高齢者・子育てグループを交えたユニバーサルデザインワークショップが取り組まれ、日本では初めての世界基準を満たした競技場となりました。車いす席は国際基準である全席数の0.5%以上である500席と多く、好きな席が選べるよう各層に水平直直分割し、また前席の人が立ち上がった後も見えるリフトラインの確保、多様なトイレを多数設置、障がいの移動ルートも健常者と同じにするなど、当事者の声を反映させたユニバーサルデザインが重要であることを示しました。こうした大会を通じて整備されたインフラや技術、サービスといったレガシー（社会遺産）がオリンピック・パラリンピックのためだけのものとならず、2025年の大阪・関西万博や、全国各地のユニバーサルデザインのまちづくりへも引き継がれていくことが必要です。

**【会場】** 都島中学校  
 都島区中野町3丁目9-33

## 参加申込書

都島区社会福祉協議会（ふれあいセンター都島）

TEL：06-6929-9500 FAX：06-6929-9504

参加をご希望の方は下記にご記入いただきFAXいただくか、お電話で申込みください。

お名前		電話番号	
ご住所			
配慮が必要なこと などがあればご記入ください			

申込締切：2月3日（金）まで